

## 聴覚障害者の精神保健福祉を考える研修会 2023 Q&A

研修会後のアンケートで皆様からお寄せいただいた質問に、講師の皆様から回答をいただきました。可能な範囲での回答となりますことをご了承ください。

### ◇講演会への質問

#### 質問1

「チームで対象者を支えるという話があったが、チームのまとめ役となるのは誰か？介護保険でいうところのケアマネジャーにあたる人は、誰になるのか？どうやってその支援者を探せば良いのか。」

#### 【回答】 倉知延章氏

チームのまとめ役は、チーム構成員の中から、最もみんなが適していると思う人がなれば良いと思います。職種は関係ないですね。おそらく、構成員一人一人の意見を尊重し、決断力があり、対象者の自立に向けた支援を考えられる人が選ばれるのではないかと思います。「みんなでリーダーを決めませんか」と提案して進めると良いと思います。

#### 質問2

「アウトリーチ支援の意義が更に深まり、日本の固定的な精神病院の体制に一石を投じて欲しいと思いました。長期入院から地域へがなかなか進まない日本の精神行政については、風穴をどこから切り崩していきたいとお思いでしょうか。」

#### 【回答】 倉知延章氏

地域相談支援事業所のスタッフ(地域移行支援)と病院の精神保健福祉士がタッグを組み、病院から押し出す力と地域から引っ張る力を合わせるのだと思います。必要であれば精神医療審査会の力も借りたいですね。

#### 質問3

「現実問題として、就業先を見つけてから、そこで訓練するということに対応してくれる企業はあるのでしょうか。現状は、数日間の実習でより優れた障害者が雇用され、それでさえ、「実習の時と違う、話しが違う」と企業から連絡があり、訪問してその当事者に合った支援をお伝えします。その結果、支援員の出入り禁止に近い言い渡しをされ、後は企業側のやり方で進めるので、口を挟ませてもらえないことも多いです。形だけの定着支援になる企業も少なくありません。企業に入り込んでから訓練を進めるのに、事前にそういう企業を育てるような働きかけをしているのでしょうか。」

#### 【回答】 倉知延章氏

私たちの事業所ではあまりそのような経験をしていません。4年半で52名の精神障がいのある方を職場に送り出していますが、ほとんどが就業先を見つけてから職場で支援しています。スタッフたちは見つかるまで探し続けます。それも、本人が希望する職種でです。私自身が現場にいた頃の経験では、「100社あたるぞ！」と心に決めて職場探しを始めます。20社くらいあたれば何とかなっていました。事業主(採用担当者)とじっくりと対話を重ね、先方から質問してもらうことが重要と思います。本人について話すときは、ストレス、合理的配慮の内容、我慢してもらう点について情報提供します。また、まずはスタッフが職場実習を行い、職場環境のアセスメント、現場の従業員との関係づくり、職場で支援する内容と方法の検討を行います。時にはできそうな仕事を企業の中から探して、一人分の仕事として組み立てます。このような提案は必要かと思います。企業は私たちの支援対象者です。企業にとって役に立つ存在になることを目指しましょう。

#### 質問4

「アウトリーチを制度の中で使っていくための方法を教えてください。」

【回答】倉知延章氏

その制度を活用するにあたって、アウトリーチ支援が不可になっていないか、どこまでなら許容されるのかを調べることです。障害者総合支援法のサービス、訪問看護など、支援制度はたくさんあります。

#### 質問5

「近隣の人に泥棒がいる、毎日来ると被害妄想があり、警戒心が強い人でも、積極的に訪問してもよいのでしょうか。相談のきっかけは、本人からのSOSで、高齢者で一人暮らし、毎日散歩しており、日々の買い物はできる人です。警戒心が強い人に対する支援、距離感が難しいです。アウトリーチはどこまで行くべきか、積極的に訪問して対応してよいのか、気になります。」

【回答】須田竜太氏

訪問の頻度はケースバイケースなので明確に答えるのは難しいですが、拒否があったり、信頼関係構築が難しかったり、訪問することにスタッフの心理的負担が高いほど、むしろアウトリーチの必要度は高いと思います。単純接触効果(繰り返し見たり、会ったり、接触する回数が増えるほど、警戒心が薄れていき、親しみや親近感を感じるという効果)を考えると、短時間の挨拶だけでも頻回に訪問することに意味があると思います。また、相談のきっかけがご本人からのSOSなので、ご本人の困りごとを一緒に解決することが関係構築につながると思います。

#### 質問6

「事例で出された対象者について、連絡、訪問頻度から支援に繋がるまでの期間は、どれくらいかかったのでしょうか。」

【回答】須田竜太氏

ご本人とのコンタクト頻度は、ケースバイケースで、いつも多職種チームで話し合っ  
て検討しています。月1回の方から1日2～3回の方まで、利用者一人一人にあわせたオーダー  
メイド支援を提供しています。「支援に繋がるまでの期間」というのは、なんらかの公的なサ  
ービスとの契約が成立するまでの期間という意味でしょうか？それであれば、その日のう  
ちに契約できる方もいれば、2年経過しても契約できていない方もいますので、まさに人  
それぞれです。今回の研修でご紹介した事例に関していえば、当日契約した方もいますし、  
長い方で半年くらいの期間がかかりました。

質問7

「幻覚が見えるろう者がいます。周りの人たちは、自分を統合失調症にしたいから、付  
きまどって来るんだ、そして、自分を統合失調症にしようとしている、病院に行けば負  
けたことになるから行かない、という方がいます。ご家族も困っていますが、家族から  
は意見出来ないそうです。自宅訪問も禁止されています。このような場合はどうしたら  
いいでしょうか。」

【回答】森せい子氏

ご質問の文面だけだと、関係性等がわからないのですが、ご本人と質問者様が関係  
を持てているのなら、まずはご本人の訴えをよく聞いて、見て、理解することから始めて  
みてはいかがでしょうか？自宅訪問を禁止しているのが誰かわかりませんが、会う回数  
を増やしていけるとよいですね。ご本人が困っているかどうかも大切です。

質問8

「聞こえないソーシャルワーカーが、手話通訳と聞こえない方の自宅へ訪問する場  
合に、本人以外の聞こえる家族から通訳者の同行を拒否されるようなケースはありませ  
んか。あった場合の対応はどうされているのでしょうか。」

【回答】森せい子氏

ありました。無理せずに、「森が聞こえないから必要です」とやんわりわかっていただ  
くように話しました。通訳を入れたがらないケースは少なくなかったです。時間をかけなが  
ら、寄り添う形でご家族に受け入れてもらえるように努めます。

◇実践発表とディスカッションへの質問

質問9

「人口が多いところや、地域によっては社会資源の格差が大きいと思うのですが、少  
ない地域で働いている方は、どのように社会資源をつなげているのか、把握されてい  
るか知りたいです。また、ニーズに合った支援をしたいのに、適応できるものが無い  
場合、どのように創っているのか、ご経験がありましたら教えてください。」

【回答】倉知延章氏

社会資源と人口とは関係ないと思っています。人口が多い都市部は公的な障害者対象の  
社会資源は多いと思います。しかし、社会資源は公的なものだけではありませんし、障害

者対象のものだけではありません。地域住民のつながりの強さ、ボランティアの活躍など、民間の社会資源がたくさんあります。逆にいえば、公的社会資源が増えると民間社会資源は手を引いてしまって減少していきます。だから人口と社会資源との違いはないのです。また、障害者向けではない社会資源もたくさんあります。公的なものとして、公民館、図書館、コミュニティセンター、地域サークル、スポーツクラブなど、公民問わずに無数にあります。これも大切な社会資源です。このように考えると、「地域は社会資源のオアシス」(チャールズラップ)であることがよくわかります。

#### 質問10

「連携が不可欠な課題ですが、各分野からどこまで介入していいのかの線引きが難しいです。連携支援に繋がる前段階で、躊躇して、見逃している対象者が沢山いると思います。ある程度、ルールがないと、仕方なくそのまま終えて埋もれてしまう事案が今後も増えてしまう気がします。個人の裁量でなく、もっと伝えやすい場(守秘義務問題もありますが)、環境が整うにはどんな方法がありますか。」

#### 【回答】倉知延章氏

支援者ネットワークを作ることですね。専門職同士が組織の垣根を超えて日常的につながっておくことは、この疑問の解消につながります。私が新たな地域に行った場合に最初に行くことは、支援者ネットワークを作ることです。勉強会、事例検討会などの小さな学習会や研究会を継続して、そこに集まる人を少しずつ増やしていくことを考えませんか。

#### 質問11

「手話通訳コーディネートの際、個々の通訳者の持っている資格やキャリアを考慮した派遣を行っている地域はあるのでしょうか。登録時に個人的な情報を出していませんが、それぞれ活かせる経験を持っていることだと思います。当然、通訳者としての経験を積むことで補える部分もあると思いますが、特に福祉部門の専門職で手話を学ぶ人は多いと思いますし、スポーツや教育などあらゆる分野に精通した通訳者もいると思います。」

#### 【回答】森せい子氏

個々の通訳者の持っている資格やキャリアを考慮した派遣を行っている地域があるかどうかは、リサーチしていないので不明です。

質問の後半部分については、その通りだと思います。通訳行為と支援行為等々複雑な要素が絡みますので、人材養成や手配もなかなか難しいですが、派遣センターでも適所適材で配置できることを念頭に置いています。

参加者アンケートの中で寄せられた質問と、講師や発表者の皆様からいただいた回答を掲載いたしました。

今後の皆様の支援に役立てば幸いです。なお、アンケートは終了しており、今後のご質問は受け付けておりませんのでご了承ください。